

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>国語 A（主として知識）と国語 B（主として活用）ともに、概ね全国・県を上回る、あるいは同等の正答率でした。</p> <p>漢字学習など、定着した領域は継続し、文法・敬語などは、積極的に取り組み方を考えると、成果が表れやすいと思われます。情報を読み取り論理的に説明する力はまだ十分ではありませんが、今後最も重要となる領域だと思われますので、改善策が必要です。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○国語 A「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話す」は正答率が 96.8%で、本校児童には力がついていることがわかります。</p> <p>●国語 B「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」は正答率が全国・県・本校ともに 30%近くと低く、聞くだけではなく複合になると難しいので、改善策が必要と思われます。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○国語 B「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」選択式、「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」記述式、いずれも全国・県平均を上回り、正答率も 6 割前後でした。</p> <p>●国語 B「目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く」の正答率は、全国・県平均・本校ともに 1 割程度で、全問題のうち格段に低いので、取り組み方を考えなければなりません。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○国語 A「目的に応じて必要な情報を捉える」「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」国語 B「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」「自分の考えを明確にしながら読む」いずれも全国・県平均を上回り、また正答率も 6 割前後から 8 割と、力がついています。</p> <p>●読む力が、話す・聞く・書く力に結びつくように、複合して取り組む必要があります。</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○国語 A「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」は、5 問とも、全国・県平均を上回り、正答率も 8 割前後と漢字学習が定着してきたことが伺えます。</p> <p>●国語 A「文の中における主語と述語との関係などに注意して書く」は、全国・県平均は上回っているものの、正答率が半分以下なので、つけたい力であり、文法は取り組めば確実に伸ばせる領域であると思われます。</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問〇～〇</p>	<p>「今回の調査では、国語に関する質問はありません。」</p>

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>算数 A（主として知識）と算数 B（主として活用）ともに、全国・県平均を上回る正答率でした。</p> <p>除法の意味や円周率の意味など、基礎的な知識・理解の正答率が 5 割なので、基礎力の定着はもっと必要だと思われます。表やグラフを読み取ることはできても、応用して複数の問題を結び付けて判断・解釈することは正答率が低かったなので、取り組む必要があると思われます。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○算数 AB ともに、正答率が全国・県を上回っただけでなく、無回答率が全国・県を下回り、問題に取り組もうとする姿勢が見られています。特に B（活用）でも正答率が 6 割前後～8 割と高い結果でした。</p> <p>●小数の除法の意味の理解の正答率は、全国・県平均よりは高いが、他の問題に比べると 5 割で低いので、改善の余地はあると思われます。</p>
<p>量と測定</p>	<p>○算数 AB ともに、正答率が全国・県を上回り、無回答率が全国・県を下回りました。特に算数 A「<math>180^\circ</math> 角の大きさ」の理解は 96.1%の正答率で定着しています。</p> <p>●算数 B「集まった角の大きさが <math>360^\circ</math>」を説明する記述には、無回答者が他の問題よりも多く課題がみられます。</p>
<p>図形</p>	<p>○算数 AB ともに正答率が全国・県を上回りました。特に、算数 A「直径の長さと同様の長さの関係」の理解は、全国・県を大幅に上回る正答率で、無回答率も同じく大幅に下回り、定着が伺えます。</p> <p>●算数 A「円周率の意味」の理解は 5 割なので、上記「直径・円周」の理解が高いことからみると、惜しい結果です。合わせての定着が望ましいと思われます。</p>
<p>数量関係</p>	<p>○算数 AB ともに正答率は全国・県を上回り、特に A は 6 割～7 割の正答率で、知識・理解の力が付いています。</p> <p>●算数 B「メモの情報とグラフを関連付ける」「棒グラフと帯グラフから読み取る」など、複合して解釈・判断する活用力は十分ではないので、積極的に取り組む必要があると思われます。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 27～37</p>	<p>(28)「算数の勉強は大切だと思いますか」(29)「算数の授業の内容はよくわかりますか」の質問より、算数の勉強は大切で授業にもしっかりと向き合っている児童が多いことがわかります。一方 (32)「算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか」の質問には肯定的な意見が高くないので、活用についての課題が残ります。</p>

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学理科）

学校名 逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>A 区分（物質・エネルギー） B 区分（生命・地球）共に、概ね全国・県を上回る、あるいは同等の正答率でした。</p> <p>地球分野は正答率が半分程度でした。自然災害にも関わる児童の生活にとっても重要な内容でもあるため、学習内容の確実な定着が必要です。特に浸食作用の働きの実験における「予想」と「考察」を十分に組み合わせることが必要であると考えられます。</p>
<p>物質</p>	<p>○概ね正答率が全国・県を上回り、無回答率が全国・県を下回りました。食塩の溶解と重さについては全国・県平均を上回りました。海水と水道水について2つの異なる方法の実験結果を分析し考察することについても全国・県平均を上回りました。</p> <p>●ろ過の適切なやり方の理解が若干乏しく、確実に定着させる必要があります。食塩の蒸発についての考察を記述で正確に表現できず、考察を文章で正確に書く学習が必要です。</p>
<p>エネルギー</p>	<p>○全ての正答率が全国・県を上回り、無回答率が全国・県を下回りました。これらの問題は全て「活用」に関するものでしたが、問題形式も全て「選択式」であり、児童にとって回答しやすかったことが分かります。</p> <p>●太陽の1日の位置の変化に関する理解は4年生時の学習内容です。正答率が半分程度でした。これは全国・県の平均より高い結果ですが過半数の正答率なので今後もより確実な理解と定着を図ることが大切です。</p>
<p>生命</p>	<p>○概ね正答率が全国・県を上回り、無回答率が全国・県を下回りました。特に腕が曲がる仕組みは全国・県平均を上回っています。4年生の学習内容ですが、確実な知識の定着ができており、その知識を活用する力もあることが分かります。</p> <p>●生物愛護の関心・意欲・態度に関わる問題の正答率が全国・県を3%下回りました。観察の留意点や目的を事前に共有して学習を進めていく取り組みが必要です。</p>
<p>地球</p>	<p>○「流れる水のはたらき」の堆積作用の知識・理解は8割以上であり、県平均より高い結果となっています。雲と天気の関係についての問題も県平均より高く、複数の情報を関係付けて分析できています。</p> <p>●「流れる水のはたらき」の実験を構想する力と考察する力をはかる問題ではどちらも少し低い結果となりました。前者は選択式、後者は記述式でした。実験の予想と考察に力をいれて学習していくことが大切です。</p>

<p>児童質問紙 理科に関する質問 問 38～53</p>	<p>「理科の勉強は好き」「理科の勉強は大切だと思う」と回答している児童は平均正答率が高い傾向が見られます。上記の回答をしている児童は全体の6割程度です。他教科と比べ低いので課題が残ります。</p> <p>(50)理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか(51)解答を文章などで書く問題を最後まで解答を書こうと努力しましたか、について「全ての書く問題で最後まで書こうと努力した」と解答した児童は他教科より低い傾向にありました。実験や観察の予想と考察でしっかりと書く学習が必要だと分かります。</p>
---------------------------------------	---

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 逗子小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- ・教科学力「国語 AB」「算数 AB」「理科 AB」については、全国・県よりも高い正答率ですが、児童質問紙における結果は、低い項目もありました。
- ・「学校のきまりを守っていますか」に対する回答状況から、規範意識が低いことが伺えます。
- ・「いじめはいけない」に対する意見は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を含めると、全国・県と同等ですが、「どんな理由があってもいけない」に対しては県平均より少し低い結果でした。
  - ・「自宅での学習習慣（自学自習）の意識」は高くありませんが、学校の宿題には、自宅で多くの児童が取り組んでいます。他に「自宅外での学習（塾や家庭教師など）」の割合も、全国・県に比べ非常に高く、「放課後」「週末」の過ごし方では、塾・習い事が高いことがわかります。地域性も含め、本校児童の特徴だと思われまます。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」児童が全国・県平均より多く、情報を取り入れることには、全国・県平均以上に高い興味をもっていることがわかりますが、情報源が「新聞」ではなく、「テレビ」「インターネット」「スマートフォン」が高い割合です。

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

国語、算数、理科においても基礎的・基本的なことは概ね理解していると思う。しかし理科などは「どうしてそうなるのか」「その結果を検証するための実験や装置の工夫」などを思考する部分の正答率がそれほど高くないので実験や観察など実際に自分で体験し、そこで不思議に思ったことや疑問について考察をしていくことが必要と考える。

国語・算数においても「自分の考えを書いたり記述したりすること」について無回答や正答率が低くなっているので普段の授業でも自分の考えを書いたり、文章の要約をしたり、根拠となることを示して説明する等の取り組みに力を入れていきたい。

また、新しい学習指導要領の移行期間であるうちに『主体的で対話的な深い学びに』について教職員で共通理解を図り、学習指導に取り組んでいきたい。